

一般質問通告書

【第71回定例会】

多可町議会議長 河崎 一 様
多可町議会議員

辻 誠 

| | |
|------------------------------------|----|
| 受 領 日 | 番号 |
| 平成 28 年 9 月 15 日 午前・午後 8 時 30 分 | 6 |

| 質問の項目及び要旨 | 答弁を求める者 |
|-------------------------|---------|
| 1. ゴミ焼却施設について 別紙 | 町長 |
| 2. | |
| 3. | |

1・ごみ焼却施設について

それでは私は質問通告に基づいて町長に、ごみ焼却施設について質問いたします。

これまで多可町は、西脇市と加東市と2市1町で「みどり園」を運営してきました。

8月30日に神戸新聞で報道されたところによりますと、平成36年3月までに西脇市と多可町の1市1町で新たにごみ処理施設を建設することで合意されています。

みどり園は、地元との約束で、平成36年の3月までのできるだけ早い時期に閉鎖をしなければなりません。

代替案の一つとして検討がされてきた、小野市、加西市、加東市、西脇市と共同での焼却施設の設置は、私もかつて、これまで続けてきたごみのリサイクル化への努力が無駄になる可能性が高いこと。また、かえってコスト高になり、ごみ行政に関する住民負担が増え、収集などのサービスが低下しかねないことを指摘してきましたが、この際改めて、

①これまでの経過、および

②4市1町で施設整備した場合と1市1町での場合の違い

についてお知らせをいただきたいと思っております。

さて、町長も8月30日の会見で「迷惑施設から新しい時代を開く施設にしたい」（神戸新聞報道）「木質バイオマス発電を取り入れた施設に」（8・27毎日新聞）とお話になられていますが、ごみ処理施設については、平成25年5月の閣議決定でも「廃棄物処理施設の整備にあたっては」「創エネルギー化を進め」ることが重要であると述べていますし、「地域特性を踏まえて回収エネルギーを熱供給により地域に還元することが考えられ」としてありますから、我々の取り組み如何では国などから技術支援や資金面の支援も受けることができるのではないのでしょうか。

そこで、この際全国のモデルとなるような施設にすべく複数の機能を持たせてはどうかと思うのです。

ごみ焼却施設の特性を考えるとき、「創エネルギー」の手法としては、町長もお触れになられている、「蒸気タービン発電方式としての木質バイオマスを活用した発電」に加えて、これをコージェネレーション化して「廃熱発電（※排出された廃棄する熱を利用した発電方法：具体的にはスターリングエンジン方式や熱電変換素子がある）」も可能性がありますから、③これらの発電方法にも挑戦してはどうか。④また、あわせて「熱供給により地域に還元する施設」として野菜のハウス栽培にも取り組んでみてはどうかと思うのですが 町長のご所見をお伺いします。

さて、いずれにしても西脇市との共同事業であります。

同会見で西脇市市長は「リサイクル化をさらに進めていく」と表明されていますから、ごくごく表面的にこの発言を捉えれば、焼却施設は「必要最小限」の「大きくない」施設を描いているように思えますし、それが「当然」のことでもありましょう。

今度の施設を「迷惑施設から新しい時代を開く施設に」するためには、先行して研究ししっかりとしたプランを立てることが必要ではないでしょうか。

そこで⑤庁舎内に「ごみ焼却施設を迷惑施設から新しい時代を開く施設にするためのプロジェクトチーム」を設置して可能な限り早い時期に、我々のプランの青写真を作る必要があると思うのですが、町長の答弁を求めます。